

第8回「オリアム随筆賞」

【審査員奨励賞】

ぞうきん

清家風紗・泉大津市

「うち、ぞうきんつくりたいねん」とつぼみのおばちゃんに言いました。

「なんでぞうきんがいるの」と聞かれました。なぜかというと、二年生の三学期が始まったとき、学校でそうじをするために、先生が「金曜日までにぞうきんを二枚持ってきてください」とクラスみんなに言ったのです。うちは「どうしよう」と思いました。

ママにたのみたいけれど、ママは十年前からの病気が悪くなっているのに仕事を毎日つづけています。そんなママに言うことができないと思ったのです。おばちゃんやったら、いっしょに作ってくれると思ったのです。だからおばちゃんに、うちはたのみました。

「土曜日にするか、日曜日か」と聞かれて、土曜日に作ることにしました。

つぼみは子どもの集う場所で、一階は、宿題をやったり、みんなでごはんを食べるところです。二階は学習じゅくで、三階にはしょうぎとミシンが置いてあります。前からおばちゃんに、「今度、いっしょにミシン使って何か作ろうな」と言われていました。

ぞうきんを作る約束の土曜日、友達をさそっていきました。おばちゃんは、三階でまっすぐ来ていました。

新しいミシンなので、「みんなで糸通しからしようか」と言われたけど、わかりませんでした。ミシンの下のボビンという、とうめいの車のタイヤみたいなものに糸を巻きつけていきました。新しいミシンなのでうまくいきません。糸がいっぱいできてきました。

「なんでこんなにいっぱい糸が出るん」とおばちゃんに聞きました。「ボビンケースにからまっただまになったんよ。二人で糸をほどこいて」とおばちゃんに言われました。「ほどこいて、なに」とおばちゃんに聞きました。「ぐちゃぐちゃになった糸をまっすぐにしておくことだよ」とおばちゃんは答えました。

友だちと二人で糸を手にまきました。あまりおもしろい手にもいたので、まきついてしまいました。だんだんきつくなってきた、手からはなれなくなり「いたい、いたい」って言うつてると、あわてておばちゃんに助けを求めました。

ミシンが動き出して、おばちゃんに「こっちはおいで」と言われました。うちは、おばちゃんの前ですわりました。そして、ミシンを動かして作り始めました。

おばちゃんは、後ろからうちの手のこうの上に手をおいて、「左手でタオルを持って右手でミシンのむこうがわにおしていきや」と言っつてすぐにうちの横に行き、動かしてるミシンを見てました。

「そうや、そうやっつてミシン動かすんや」と言われて「あつ、うちつてミシンでなんか作る

ん好きなんやな」と思いました。

作ったぞうきんは、はしのほうがくしゃくしゃになっていました。「やりなおすのどうしたらいいの」と聞くと、「また糸をほどく」と言ったので、「大変やなー」と思って、そのぞうきんをもって行くことにしました。うちのあとに友だちも同じようにおしえてもらいました。友だちがおしえてもらっているとき、すんごいひまやなと思いました。おばちゃんが、机の上にお菓子をおいていたのでお菓子ばかり食べていました。

ちよつとむつかしかったけど、楽しかったです。ミシンで作ると聞いたときはわくわくしました。友だちに、ミシンで作ったときのことを聞いたら「すつごくおもしろかった」と言っていました。うちは、ミシンで作るのをもっとうまくになりたいです。うちはミシンが好きになりました。

友だちがぬい終わるとおばちゃんに「どんな感じにぬえたん」と聞かれたので、ぬい終わったぞうきんを見せました。「少しガタガタやけど、初めてぬったのに、じょうずにぬえている」と言ってほめてくれました。「これからは、なんでも一人でできるようになってな。はしのほう糸つってるけど、なっちゃんが作ったってわかるから、そのまま先生にだしたらいいよ」と言われました。

家に帰ってママに「うち、ぞうきん作ってん」と言いました。そしてママに「すごいね」と言われました。うちは、そう言ってくれたママの言葉がとてもうれしかったです。

次の日、学校へ行って先生にぞうきんを見せて、「うち、ぞうきん作ってん」と言いました。先生は、おどろいていました。クラスの友だちにも話しました。みんなに、「うそやろ、ぜったいに買ったんやろ」と言われました。うちは、みんなの反応がおもしろかったです。

そして、早く治ってもらいたいと思っていたママは、手術をして無事に病気が治り、今は元気になっています。